

図書館利用者のアクセス手段のアンケート調査報告

—山口県宇部市・山口市の比較—

村上ひとみ (大学院創成科学研究科・建設環境系専攻)・松尾清司 (カルビー (株))

Questionnaire Survey of Public Library Users on Means of Access in Ube and Yamaguchi Cities

Hitomi MURAKAMI (Graduate School of Sciences and Technology for Innovation),

Seiji MATSUO (Calbee, Inc.)

Abstract:

Questionnaire survey was conducted for library users on means of access and eco mobility interest in Ube and Yamaguchi cities in 2019 and 178 responses were collected. In both cities, 60% use automobiles and 30% use bicycles. Users in Yamaguchi city tend to stay longer and to be more affected by congestion of parking spaces. Interests for eco mobility differ according to distance to the library, age, and daily means of transportation. Users in Yamaguchi city tend to prefer visiting other facilities in occasion of library visit than those in Ube city, due to available facilities in library neighborhood.

Key Words: library, means of access, mobility, questionnaire survey, Ube city, Yamaguchi city

1. はじめに

近年、日本の図書館は多様化し、現在もなお変化を続けている。図書館は「本の貸し出し」のみから、「課題解決型」や「滞在型サードプレイス」などの役割を持つようになった。

山口県内でも同様に、2003年には山口市立中央図書館とホール、美術館などが併設されたYCAM(山口情報芸術センター)が誕生し、2018年には周南市立徳山駅図書館でも書店やカフェが併設された。このような図書館の変化によって、一人当たりの図書館の滞在時間は増加する傾向にあると推測される。しかし、滞在時間の増加は、既存の駐車場の混雑を招き、利用環境を悪化させるおそれがある。

山口市や宇部市を含め、山口県では通勤通学の交通手段として、自動車への依存度が高く、バスや鉄道など公共交通の利便性が低いことが大きな問題になっている。2010年国勢調査¹⁾による15歳以上の通学・通勤時の交通手段(多項目)をみると、自動車の割合は山口市で68%、宇部市で71%と高い。

高齢化が進む中、公共交通の必要性は高まっているが、サービスの持続がますます困難になっている。図書館などの利用者も、高齢者が増える中、車が便利だからと車ばかりに頼るのでなく、図書館に行く機会に駅から歩くとか自転車に乗るなど、エコ交通の応援と健康づくりにつながる工夫が大切と考えられる。

宇部市では、2015年に「宇部市にぎわいエコまち計画(低炭素まちづくり計画)」を策定した。また、公共交通など、便利でエコな移動ができるまちづくりを基本方針に定め、これを実現するため、元気で安心な暮らしを支え、「使いやすく、持続可能な地域公共交通網」を形成することを将来像とした「宇部市地域公共交通網形成計画」²⁾を策定し、2020年度には「宇部市自転車活用推進計画」³⁾を策定した。

山口市でも、2007年に策定した「山口市市民交通計画」による、クルマに頼り過ぎない交通まちづくりを目指してきたが、マイカーに過度に依存した生活スタイルは変わらなかったため、まちづくりと連携した面的な公共交通ネットワークの再構築や持続可能な交通まちづくりの実現に取り組むために、「第二次山口市市民交通計画(山口市地域公共交通網形成計画)」を策定した⁴⁾。

また、町が郊外にスプロールし、街中がさびれたことが大きな問題となっているが、図書館のような公共施設には多くの利用者が集まることから、そのにぎわいが周辺地域に波及するような仕組み・工夫が求められている。

久野・他⁵⁾は、車中心の生活環境は、メタボリックシンドロームや生活習慣病に影響を与えるだけでなく、コミュニティ存続の危機や社会的孤立を助長する可能性もあると述べ、健幸都市(=身体面の健康だけではなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活が送れる都市)を目指している。久野らは

健幸都市賛同自治体を募り、市民への啓発に努めており、宇部市もその賛同自治体となっている。

村上・他⁶⁾は、自転車歩行者道を基本としている地域自治体への道路の在り方について再考の必要性を示している。山口県では人口のさらなる高齢化に備え、車依存を減らし、公共交通の利用を促進できる取り組みを進めることが望ましい。このように自転車利用の支援策やモビリティ・マネジメントの研究は多いが、地方都市における図書館利用者の交通手段に関する課題整理は十分とはいえない。

本研究では、山口市立中央図書館と宇部市立図書館の利用者に対するアンケートにより、駐車場の混雑具合や交通手段についての意識を調査する。その結果から2つの図書館の回答を比較し、図書館利用者の交通手段に対する現状や意識の違いを検討する。また、距離や年齢、交通手段など、回答に影響するような要因がないか検討する。この研究により、滞在型図書館によって起こりうる問題の要因を見つけ出し、これから滞在型になる図書館とその周辺環境の整備、健幸都市に向けた取り組みへの手がかりになればと思う。

2. 図書館の周辺環境とアクセス手段

2.1 立地条件、アクセス手段による2市の比較

宇部市立図書館と山口市立中央図書館(YCAM)の施設、交通条件、利用者数などを表1に比較する。どちらの図書館でも、土日やイベント時の混雑対応のため、臨時的な駐車場を設けている。蔵書数や年間利用者数から、山口市立中央図書館の方が規模が大きいが、駐車場台数は宇部市立図書館に比べ、やや少ないため、より混雑しやすい傾向にある。

また、山口市立中央図書館と宇部市立図書館の徒歩500m圏内の主な施設を比較すると前者では、以前の駐車場だった場所にカフェがあり、中央公園や湯田温泉の施設もあるため、図書館のついで利用が行われやすい。また、スーパーについては、山口市立中央図書館周辺に2店舗存在するが、宇部市立図書館の場合は、1km以上離れている。以上のことから、現状では山口市立中央図書館の方が周辺施設が充実しており、図書館のついで利用が行われやすいと推測される。

Table 1 Location and access conditions of Ube city and Yamaguchi city central libraries

| | 宇部市立図書館 | 山口市立中央図書館 |
|-------------------------------|---|---|
| 竣工年 ^{7),8)} | 1991年3月 | 2003年4月 |
| 延床面積 ^{7),8)} | 4,094 m ² | 3928 m ² |
| 館内蔵書数 ^{7),8)} | 274,891冊 | 350,252冊 |
| 開館日・時間 | 月曜日：定休日 火～金曜日：9時～19時 土日祝：9時～18時 | 火曜日：定休日 月、水～金曜日：10時～19時 土日祝：10時～17時 |
| 駅からの距離 | JR宇部線 宇部新川駅から1.1km 琴芝駅から0.7km | JR山口線 湯田温泉駅から1.9km 山口駅から1.8km |
| バスの便 (路線名：本数/日 ：注1) | 「図書館・県総合庁舎」 から徒歩3分 (めぐりーな路線：4本/日) | 「情報芸術センター前」 から徒歩1分 (防長交通：各方面9～38本/日) (JRバス：約30本/日) (市コミュニティバス：約12本/日) |
| 駐車場台数 ※()は土日やイベント 時追加分 | 125台 (+約150台：注2) | 120台 (+約80台：注3) |
| 年間利用者数(年度：開 館日数,人/日) | 364,074人 (2018：291日,1251人/日) | 397,579人 (2018：255日,1559人/日) |
| 備考 | バス停から少し離れていることから、公共交通の利用者は少ない | 最寄り駅までは温泉街を通過する経路あり。市域が広いため、地域差あり |

注1： 本数は片道分

注2： 山口県宇部総合庁舎が休みの際には、駐車場が開放され、図書館他の臨時駐車場となる

注3： 図書館に隣接する山口市庁舎別館などの駐車場、YCAMが立地している中央公園の北西側県道沿いの縦列駐車場所を、週末やイベントの混雑時に開放

2.2 宇部市立図書館の立地条件とアクセス手段

宇部市立図書館で開催された、「UBE 読書のまちづくりネットワーク会議⁹⁾」(2019年4月～9月)で議論された内容として、図書館へのアクセス手段を含め以下の要望があり、課題となっている。

- ・高齢者や障害者等が利用しやすい交通網の整備
→利便性の高い図書館へのバス停の設置、バス路線の整備
- ・中心市街地の一画にある図書館の集客力を活かし、「行きたくなる図書館」づくりを目指し、中心市街地の活性化の賑わい創出を推進
- ・SDGs 図書館にふさわしい環境にやさしく居心地の良い図書館を目指した施設・設備の更新
→施設のリニューアル
→声を出せるスペースと静かに本を読むスペースをゾーニング
→館内と芝生広場をつなぐ出入り口を設置し、屋外で本を読み、子供が遊べる空間を整備
- ・誰もが気軽に利用・交流できる空間づくり
→交流スペース、企画展示や情報発信ができるスペースの拡大
→その他、学習、児童コーナー、くつろげるスペースの拡大
→芝生広場などで、キッチンカー、飲食スタンドなどの移動販売を実施
- ・利用者がゆっくり過ごせる場所として、飲食スペースの確保、カフェの設置
- ・誰もが利用しやすい図書館サービスの充実に向けた改善
→利便性の高い図書館へのバス停を設置、バス路線を整備
→多世代への場所提供として、送迎バス・乗り合いバスの運行、駐車場を整備

宇部市立図書館と周辺の駅を図1に示す。宇部市立図書館では、週末にワークショップや展示会などのイベントが行われている。お昼のパンの販売や自動販売機などがあり、飲食ができるスペースもあるが、カフェやレストランなどは併設されていない。週末には中学生や高校生が勉強をするために多く利用している。数年後の改修の際に飲食店の設置や学習スペースの拡大などの要望が実現すれば、施設利用者の利用時間はより長くなり、滞在型の図書館へと変わっていくと考えられる。バス停は徒歩3分の場所にあるが、1日片道4本程度と本数が少なく、利用者も少ない。

また、宇部市については駐車場の自動車、自転車、バイクの台数調査を2019年8月～11月に行った。駐車場利用について、平日のピークは14時～15時頃である。この時間帯には、駐車場の9割ほどが埋まるが、自動車の入れ替わりが激しいため、駐車が

できないという状況ではない。しかし、今後利用者の滞在時間が長くなるようであれば、平日の駐車場の混雑が懸念される。土日祝日は、イベントの開催時間に合わせて、駐車場の利用者が増加し、ピークもイベントにより異なる。また、週末は図書館に隣接する山口県宇部総合庁舎の駐車場が一般に解放されるため、今のところ駐車スペースが不足することはない。



Fig. 1 Map of Ube city library (source: open street map)



Fig. 2 Parking lot of Ube city library



Fig. 3 Parking lot of Ube branch of Yamaguchi Prefectural office available on weekend

宇部市立図書館館長への事前の聞き取りでは、宇部市は公共交通の核がわかりにくいことが課題であり、今後の図書館は、カフェや勉強スペースを設置した滞在型図書館や課題解決型の図書館になってい

く傾向にあるとのこと。宇部市立図書館では、数年後に改修を予定しており、もし施設の拡充が行われるのであれば、耐久性の心配もあるため、階数を増やすのではなく、1階のデッドスペースを利用する可能性もあるとのことである。また、山口県内では下関市立中央図書館や防府図書館など、駅に近く公共交通の便利な施設では、駐車場有料の例もあるため、施設の拡充に伴い、駐車場を削る可能について尋ねたところ、地方都市では自動車の利用者が多いため、そのような考えは今のところなく、有料化に関する質問についても利用者を勘違いさせる懸念があるとのことだった。宇部市の交通手段の改善について、近くに真締川が流れており、彫刻などもあるため、改善のポテンシャルは高く、川辺にカフェがあるとよいのではないかとのことだった。

2.3 山口市立中央図書館(YCAM)の立地条件とアクセス手段

山口市立中央図書館は、山口情報芸術センター(YCAM)と併設された施設である。山口市立中央図書館と周辺の駅について図4に示す。週末には、絵本講座やヨガ教室、映画の上映などが行われている。玄関正面には、中央公園もあり週末は家族連れなどで賑わっている。また、2017年8月には、駐車場の一部がカフェとなり、滞在型化している。また、バスなどの便は、宇部市に比べ良く本数も多い。しかし、山口市は宇部市に比べ市域が広いので、地域によって差が生じているおそれがある。

3章で述べるアンケート実施当日(図書館まつりの日)に駐車場の警備員の方に駐車場の混雑具合について尋ねた。それによると、映画上映のイベントに、前売り券を購入していた方が、通常の駐車場が満車のために停められず、臨時駐車場へ誘導され、上映ギリギリになってしまったこともあるそうだ。



Fig. 4 Map of Yamaguchi city central library (YCAM)
(source: open street map)



Fig. 5 Parking lot of YCAM



Fig. 6 Second parking lot of YCAM

山口市立中央図書館でも、事前に打ち合わせをYCAMの職員、山口市立中央図書館の担当者で行った。土日は駐車場でシルバー人材センターからの警備員8名が駐車場整備を行っており、混雑時にはYCAM、図書館ともに停められないという声が上がるとのこと。また、小さい子連れの人は、公共交通は利用しづらく、車で来館する人が多いそうだ。エコ交通のためのインセンティブなどは今のところ考えておらず、宇部市立図書館同様、利用者の方を動揺させないために、駐車場の有料化に関する質問は出来ないとのことだった。

2.4 図書館環境とアクセスのまとめ

図書館の機能としては、山口市立中央図書館は、山間口情報芸術センターや、近隣にカフェを持つ「滞在型」の図書館である。土日やイベント時に、利用者が増え、滞在時間も増える傾向にあるため、駐車場が混雑することもある。また、バスなどの公共交通の機能に関しては、本数も十分にあり、近隣住民にはバスの利用者も多いため、自動車からの公共交通への誘導も行いやすいと考えられる。

一方、宇部市立図書館では、休日の山口県宇部総合庁舎の駐車場の開放もあり、現状では目立った混雑は見られない。しかし、改修工事により、図書館が滞在型に近づけば、ピーク時の混雑が予測される。また、公共交通機関の本数が少ないために、バスの

利用者も少ないため、自動車から他の手へと切り替えにくいという懸念がある。

また、宇部市では公共交通の利用が少ないこと、山口市では駐車場の混雑などが課題となっているが、それによる駐車場の有料化などは考えていないとのことだった。

3. 図書館利用者へのアンケート調査と2市の比較

3.1 調査方法

公共施設の利用者に聞き取り形式のアンケート調査を行い、図書館までのアクセス手段や、代替交通手段への意識についての調査を行った。また、主な質問内容の種類と質問数を表3-1に示す。

① 宇部市立図書館

- ・日時：2019年10月27日(日, 図書館まつり), 11月20日(水), 11月23日(土)
- ・場所：宇部市立図書館出入口付近
- ・天候：3日とも晴れ
- ・担当者：山口大学 村上ひとみ(准教授)・松尾清司(4年)
- ・回答数：76件
- ・その他：平日は60代以上の高齢者が多く、休日は勉強する学生が多い傾向にある。アンケート協力者についても、休憩や勉強で座っていた60代以上の高齢者や学生が多かった。本の貸し出しのみを目的とした利用者からは、断られることもあった。

② 山口市立中央図書館

- ・日時：2019年11月24日(日, 図書館まつり)※天候は小雨

- ・場所：YCAM ロビー図書館出入口付近
- ・天候：小雨のち曇り
- ・担当者：山口大学 村上ひとみ(准教授)・松尾清司(4年)
- ・回答数：102件
- ・その他：イベント日ということもあり、20～60歳の回答者も宇部市に比べ多かった。回答者は休憩スペースや自動販売機の利用者が主である。また、情報芸術センター(YCAM)と併設しているため、回答については、どちらの利用者も含む回答である。

Table 2 Contents of questionnaire

| | |
|-------------------|--------|
| 属性に関する質問(年齢, 性別) | 2問 |
| 施設の利用に関する質問 | 4問 |
| 交通手段および距離などに関する質問 | 3問 |
| 駐車場の混雑具合に関する質問 | 2問 |
| 代替手段に関する質問 | 5問(3問) |

※カッコ内は宇部市立図書館の場合

3.2 アンケート結果の2市比較

(1) 属性

回答者の年齢集計を図7に示す。回答者の男女比率は、山口市が男性48%、女性52%、宇部市が男性41%、女性59%となっている。また、年齢分布については、宇部市では60代、70代以上の割合が40%となっている。山口市では、自動車を運転していない学生からの回答も多かった。

宇部市と山口市での滞在時間の集計を図8に示す。1時間以上の滞在者の割合は、山口市では69.2%、宇部市では57.3%となり、山口市立図書館の利用者の方がより滞在時間が長い傾向にある。

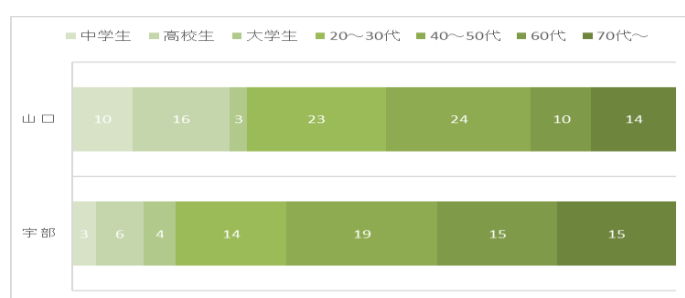


Fig. 7 Age distribution of responses (n=176)

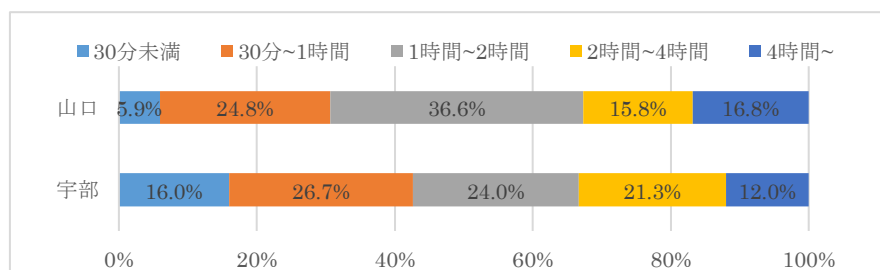


Fig. 8 Time spent in libraries (n=176)

(2) 交通手段と代替手段

宇部市と山口市での住居からの距離の集計を図 9 に示す。5 km以上の割合が宇部市では 19%，山口市では 35%である。これは山口市の市域が広く、図書館などの施設の規模も大きいために距離が長くなったと考えられる。

宇部市と山口市での当日の交通手段を図 10 に示す。自動車の利用が山口市では 56%，宇部市では

57%と自動車の利用が最も多い。宇部市では、自転車の利用が 26.3%とついで多い。山口市では、調査日に雨が降っていたので、送迎や自動車利用の割合が増えた可能性が考えられる。また、普段の交通手段についても多項目選択で質問している。2010 年の国勢調査同様、自動車の利用が最も多く、次いで自転車となっている。今回の調査では 2 市に大きな差は見られない(図 11)。

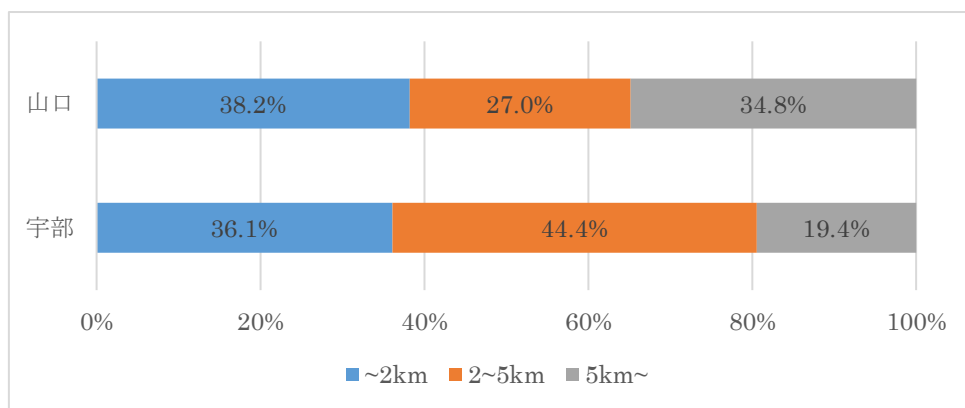


Fig. 9 Distance to the libraries

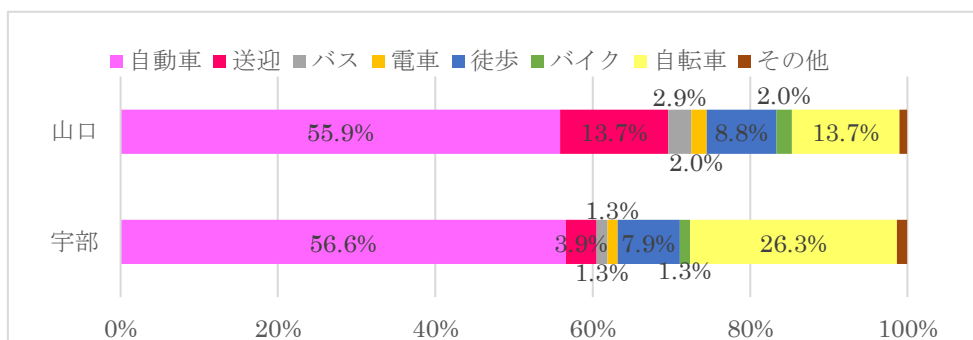


Fig. 10 Means of transport on the day of questionnaire

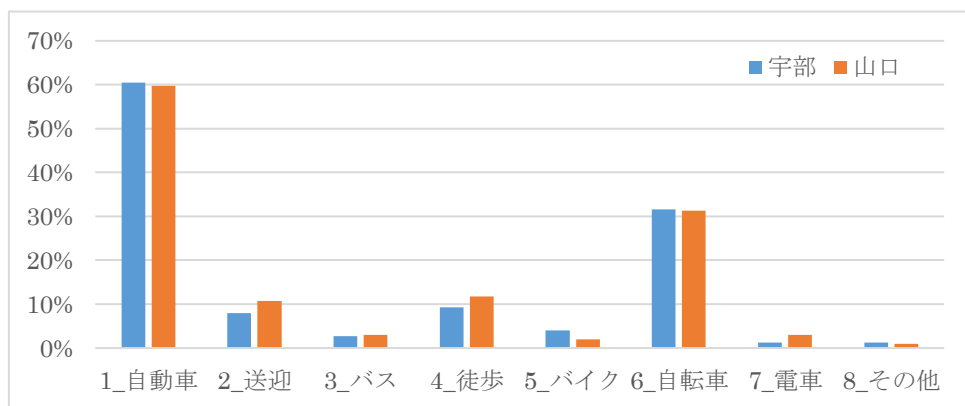


Fig. 11 Daily means of transport (Q4, multiple responses)

宇部市と山口市での、駐車場の利用環境の集計を図12に示す。宇部市では、半数以上の利用者が「ほぼ困らない」と回答しているのに対し、山口ではその選択が36%となり、60%以上の利用者が「いつも困る」、「時々困る」と回答している。これは、山口市立中央図書館が宇部市立図書館に比べ、施設の規模が大きく、利用者の滞在時間も長いと考えられる。

宇部市と山口市での自動車の代替手段の工夫についての集計を図13に示す。工夫している、工夫できそうと回答した割合は、宇部市では55%、山口市では44%となっている。また、宇部市では38%が工夫

していると回答していることから、山口市に比べ公共交通の便は良くないものの、市域が狭いために自転車等に切り替えやすい環境にあると考えられる。しかしながら、山口市で工夫できそう、工夫していると回答した人は、宇部市よりも多くの代替手段を選択している(図14)。まとめると、山口市では工夫できないと答えた人が過半数を越えていながらも、工夫の可能性のある人はより意欲的で、代替手段の選択肢が多い。これにより、山口市立中央図書館の利用者間は、宇部市立図書館の利用者に比べ、代替手段に対する意識の差がみられる。

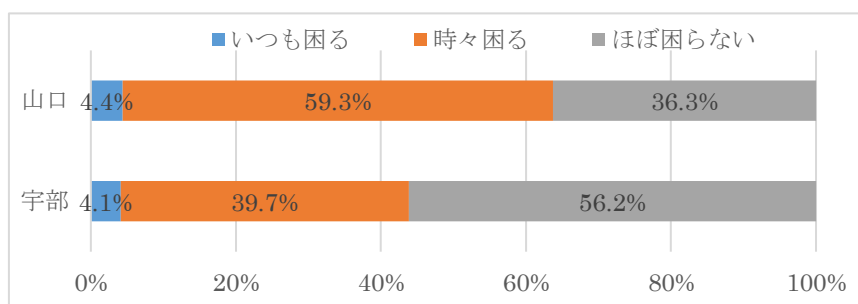


Fig. 12 Do you face any difficulty due to parking lot congestion of the library?

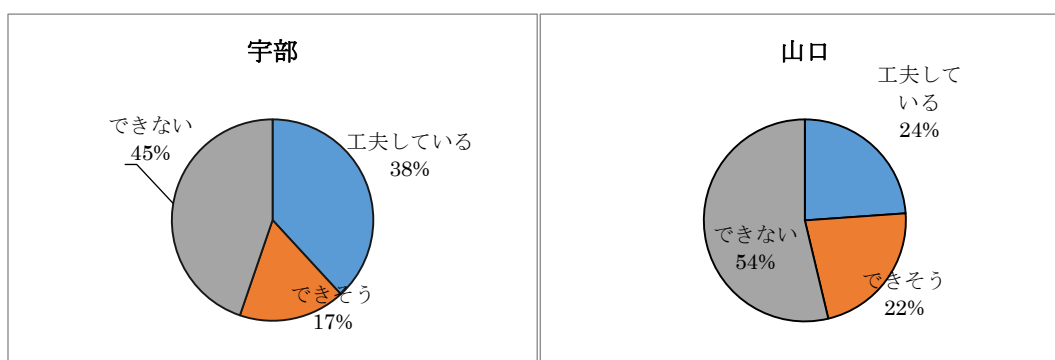


Fig. 13 Can you manage eco means of transport other than automobiles?

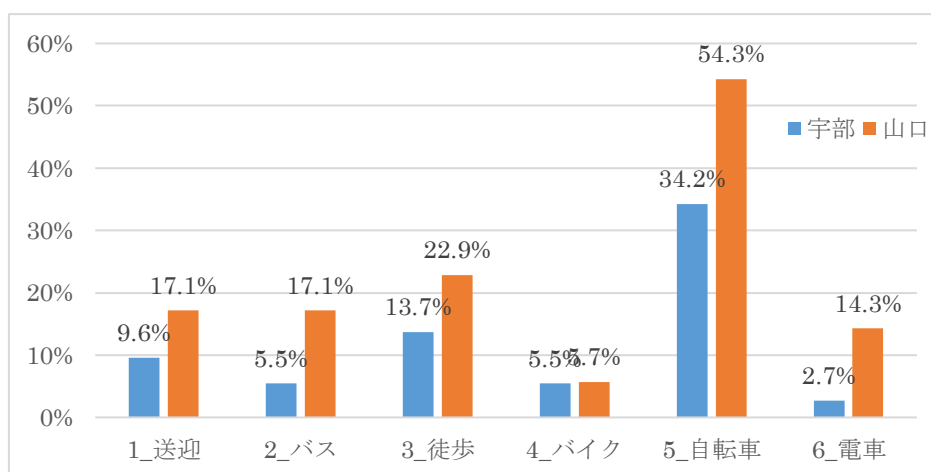


Fig. 14 Optional means of transport other than automobiles (multiple responses)

山口市では、自動車以外を利用する方、利用する可能性のある方に、その理由を多項目選択形式で尋ねた(図 15)。「車がないから」と回答したのが 39%、「免許を持っていない、もしくは返納したから」と回答したのが 29%である。このことから、自動車を利用しない人のうち、約 3 割が自動車を運転できない状態にあり、この割合は高齢化が進むにつれて、上がっていくものと考えられる。

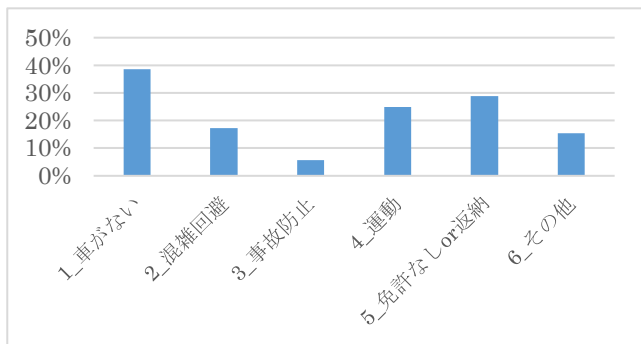


Fig. 15 Reasons to use means of transport other than automobiles (Yamaguchi city, multiple responses)

(3) 自動車以外の交通手段へ誘導するインセンティブ

駐車場の混雑を避けるために、「自動車以外の交通手段への誘導のためのポイント制度などの仕組みが

望ましいか」という質問に対しての集計を図 16 に示す。「とても望ましい」、「望ましい」と回答した割合は、山口市で 69%、宇部市で 51%と山口市の方が、意欲が高い。

また、山口市では、自転車レーンなど、自転車利用促進のため整備の必要性について尋ねた(図 17)。81%が道路整備の必要性を感じている。この質問は、2019 年 10 月に公表された山口県自転車活用推進計画¹⁰⁾に掲載の県民アンケート結果から「自転車利用を促進するために必要と思うこと」で要望が高かった項目を尋ねたものである。

公共交通が改善すれば利用したいかという質問に対しては、とてもそう思う・時間があれば利用したいと思うと回答したのは、両市とも 60%以上であり、宇部市と山口市に大きな違いは見られない。(図 18)

また、図書館を利用する際、一緒に行っていること、行いたいことについての集計を図 19 に示す。両市とも図書館の利用とともに、買い物や飲食店の利用に意欲的である。このことから、施設周辺に飲食店や買い物先があれば立ち寄り利用を促し、周辺地域の賑わいに寄与すると考えられる。2 章で述べたように、山口市の方が周辺環境が充実しているため、意欲も高くなっていると思われる。

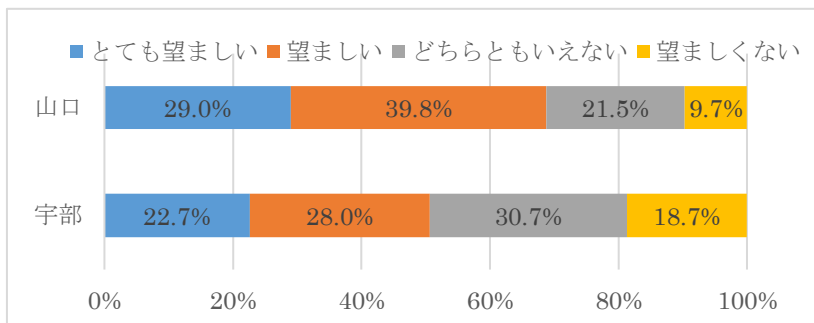


Fig. 16 Do you agree eco-point system in the library

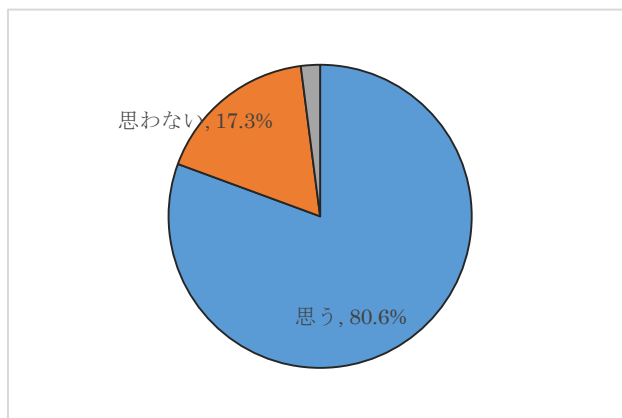


Fig. 17 Do you agree bicycle lane installation for incentive of more bicycle uses (Yamaguchi city questionnaire only)

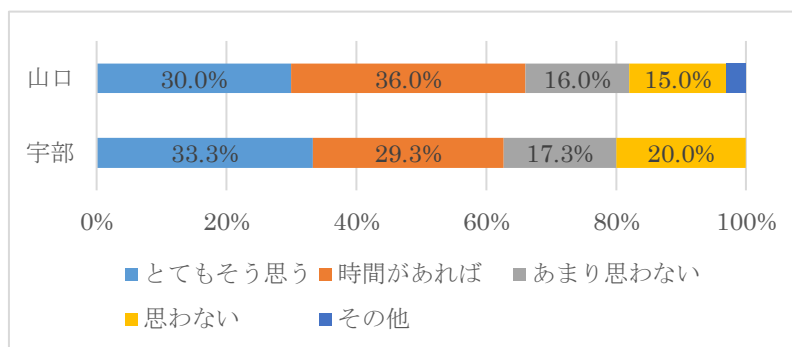


Fig. 18 Do you wish to use public transportation more if it would be improved?

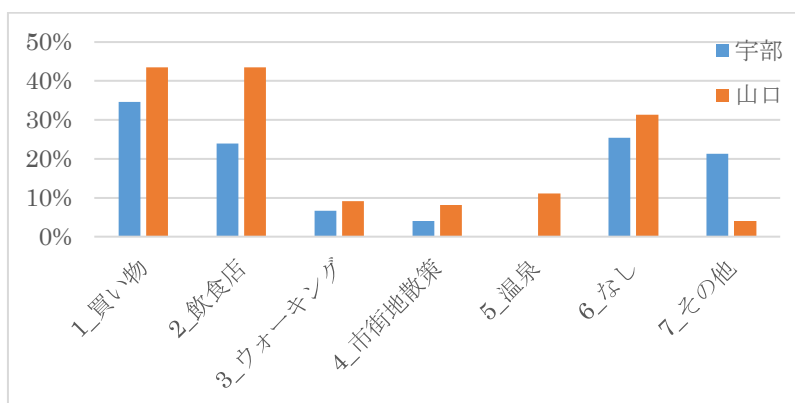


Fig. 19 Which facilities do you visit or wish to visit before or after library visit (Q10, multiple responses)

3.3 その他の要因による比較

(1) 交通手段での比較

調査日の自動車利用者とその他の交通利用者での施設の利用の仕方や、交通手段に対する意識について比較した(図 20, 21)。自動車以外の利用者では、約 54%が 2 時間以上滞在しているが、自動車利用者ではわずか 16%である。現状、自動車利用者はそれ以外の交通手段での利用者比べ、滞在時間が短い傾向にある。図書館がより滞在型へ変化するほど、長時間利用者も増えると考えられるので、駐車場の混雑が予想される(図 20)。

また、「公共交通が改善すれば利用したいか」

という質問に対し、自動車利用者では、約 56%が、それ以外の利用者では 75%が「とてもそう思う」、「時間があれば利用したいと思う」と回答した(図 21)。

エコポイント等の制度についても自動車利用者では、53%、自動車以外の利用者では 72%と自動車以外の利用者の方が積極的である(図 22)。また、「自動車利用促進のため、自転車レーン等道路整備が必要か」という質問に対しても、自動車以外の利用者では、86%が「そう思う」と回答しているのに対し、自動車利用者では 77%である(図 23)。

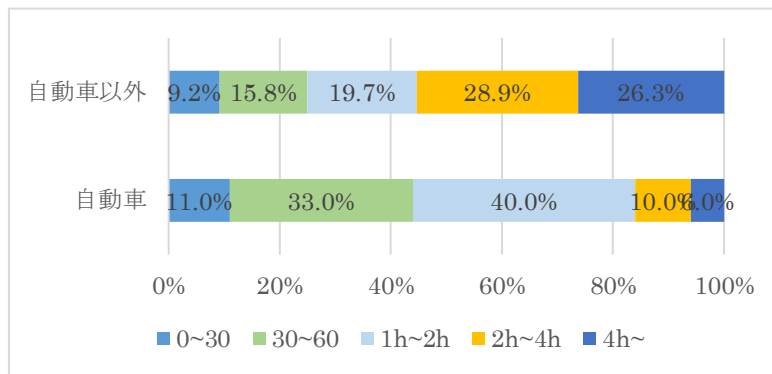


Fig. 20 Time spent in library vs. means of transport

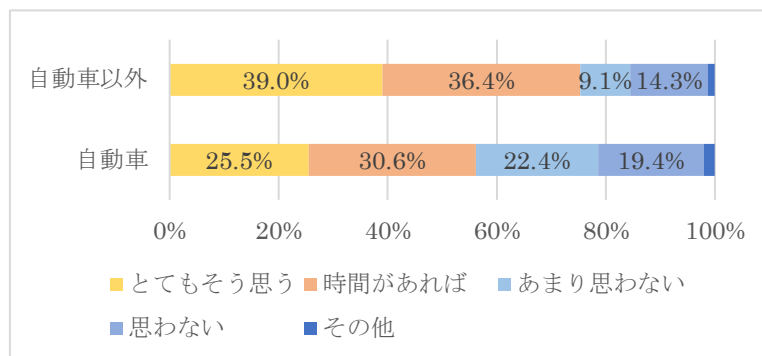


Fig. 21 Interest to use public transportation if it would be improved vs. means of transport

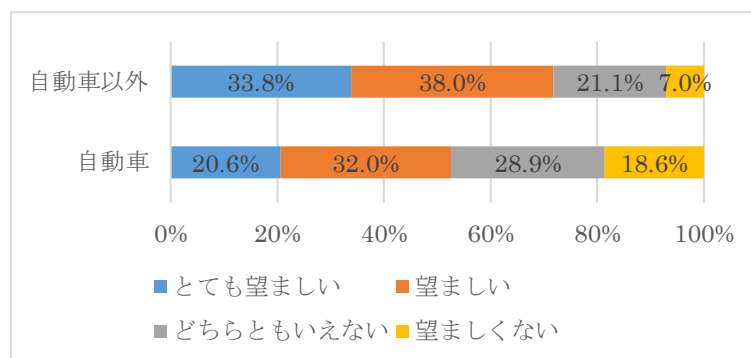


Fig. 22 Interest for eco point system vs. means of transport

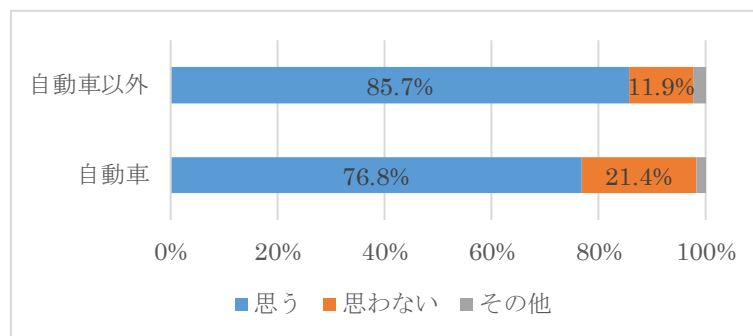


Fig. 23 Needs of bicycle lane installation vs. means of transport

(2) その他の要因によるエコ交通誘導への協力度

施設利用やエコ交通誘導策への協力の意向について、距離・年齢・代替手段の有無で比較する。施設からの距離と交通手段の関係を図 24 に示す。施設からの距離が遠いほど自動車や送迎の割合は増え、徒歩や自転車の割合は減少していく傾向にある。カイ二乗検定より 5%の危険度で統計的に有意差ありといえる(バス・電車を統合)。

また、代替の手段について、施設からの距離が 5 km未満の利用者では、約 40%の利用者が代替手段は難しいと回答しているのに対し、5 km以上の利用者では 65%となっている(図 25)。当日の交通手段とまとめると、利用者のうち、施設からの距離が遠くなるほど利用者の自動車利用は増加し、また自動車への依存も高まる傾向にある。施設からの距離とその他の施策への意欲との関係を図 26 に示す。エコポイントについては距離が近いほど意欲的ではない傾向にある。

「公共交通が改善されれば利用したいか」という

質問に対して、年齢が上がるごとに利用をしたい人は減るが、60代を越えると将来の免許返納などを考え、利用をしたい人が増える傾向にある(図 27)。エコポイント等の制度については、年齢が上がるごとに抵抗感が増している(図 28)。調査では、「年寄りだからポイントなどは難しくてよくわからない」といった意見もある。カイ二乗検定より 5%の危険度で統計的に有意差ありといえる。

また、自動車以外の代替手段の可能性の有無による違いについて図 29 に示す。公共交通の改善後の利用については、工夫の可能性のある人のうち 76%が「とてもそう思う」、「時間があれば利用したい」と回答したのに対し、工夫の可能性がないと答えた人は 46%である。同様に、自転車レーン等の道路整備(図 30)やエコポイント等の制度(図 31)に関しても、自動車以外の代替手段の可能性のある人の方が、エコ交通に積極的な回答をしていることが分かった。

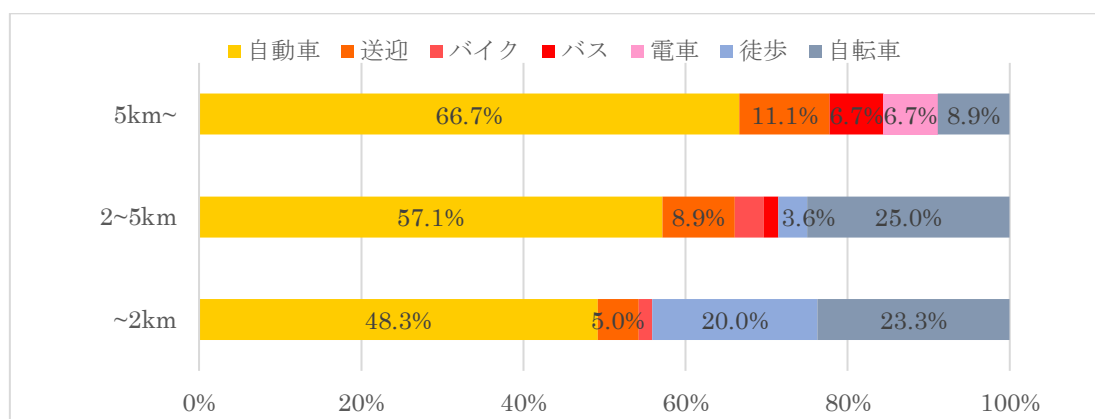


Fig. 24 Means of transport vs. distance to the library (P=0.023)

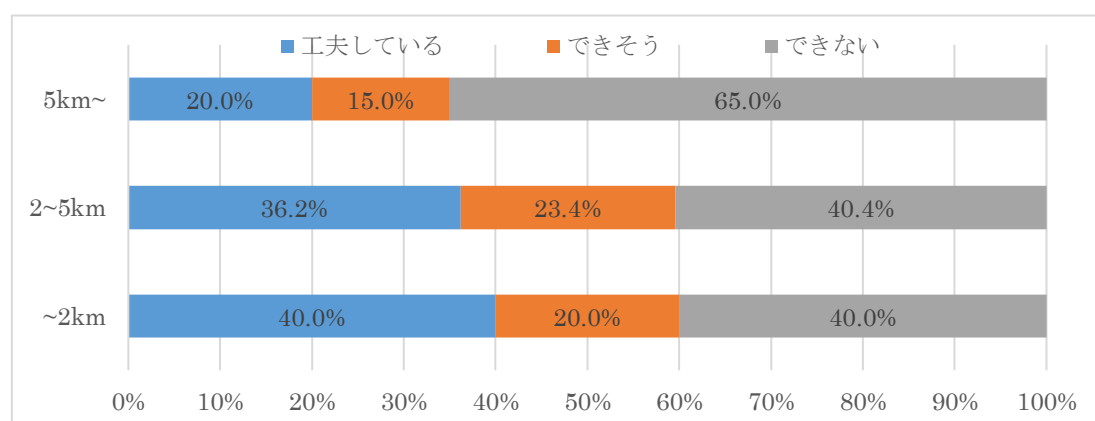


Fig. 25 Efforts for eco means of transport vs. distance to the library (P=0.123)

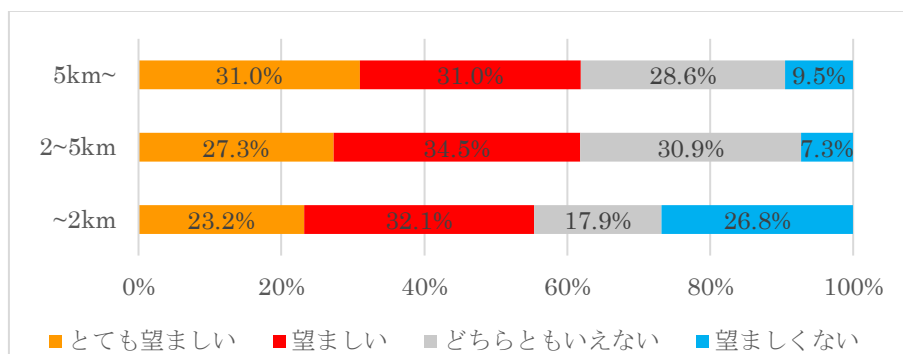


Fig. 26 Agreement with eco point system vs. distance to the library (P=0.091)

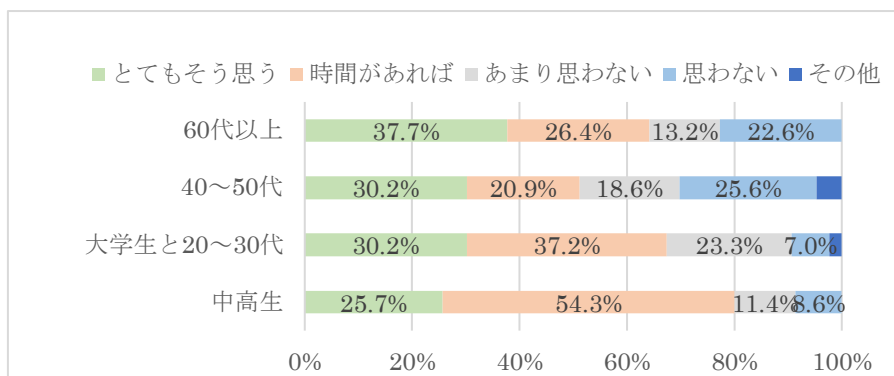


Fig. 27 Interests to use public transportation vs. age groups (P=0.039)

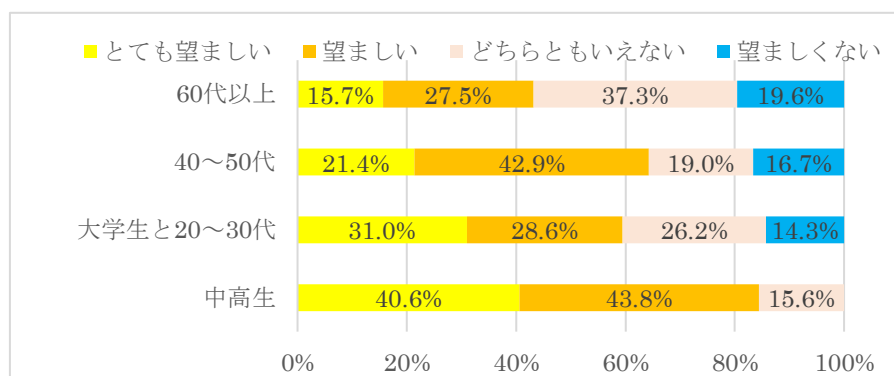


Fig. 28 Agreement with eco point system vs. age groups (P=0.027)

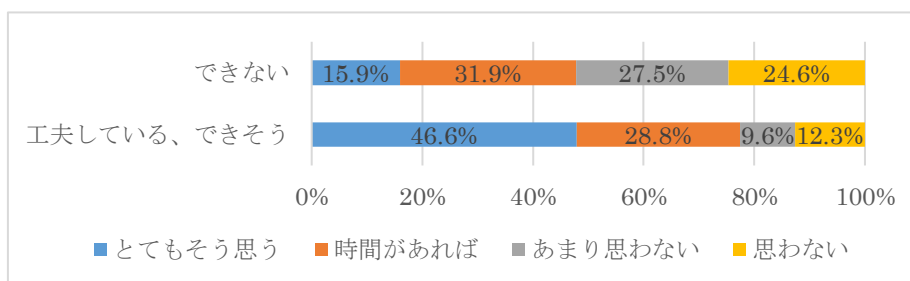


Fig. 29 Interests to use public transportation vs efforts to use eco mobility other than automobiles

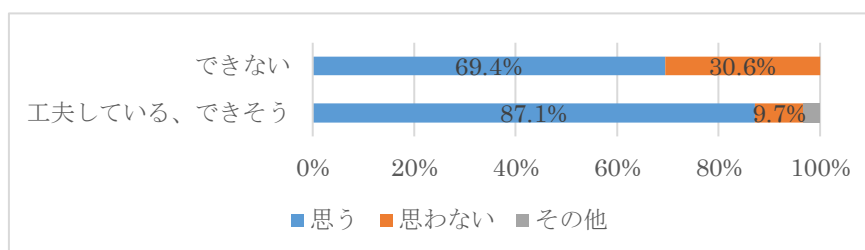


Fig. 30 Needs for bicycle lane installation vs. efforts to use eco mobility other than automobiles

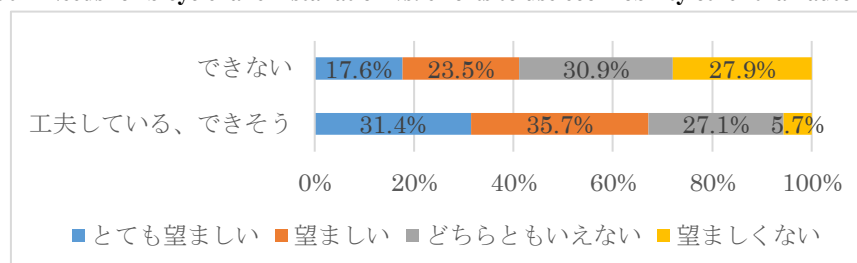


Fig. 31 Agreement for eco point system vs. efforts to use eco mobility other than automobiles

3.4 自由回答

アンケート調査中や自由回答では、「数年後に自動車の免許を考えていて、そのためには公共交通の発達が望ましい」と回答する高齢者、「赤ちゃんや小さい子供を連れていて公共交通の利用は難しい」という家族連れの声が目立った。また、宇部市では、公共交通に期待が持てない、不便という声もあった。

近年、高齢ドライバーによる重大事故がニュースで流れ、山口県の高齢者も免許の自主返納などを考えているようだが、自動車の代替手段が見つからなければ、返納が遅れ、重大事故につながってしまう恐れがある。また、子供連れの利用者にとって、バスなどの公共交通の利用は難しく、結果として自動車に依存してしまう傾向がある。

自由回答で主なものを以下に示す。

- ・バスの便が少なく、利用する考えにいたらない。(宇部市, 70代以上, 女性)
- ・免許をいずれ返納しなければいけないので、公共交通やポイント制度等を望む。(宇部市, 70代以上, 男性ほか)
- ・子供を連れていて公共交通の利用などは難しい。(宇部市, 40~50代, 男性ほか)
- ・休日は車が多く、減らす工夫がほしい。運動のためでも車があれば使ってしまう。(宇部市, 60代, 男性)
- ・近くにスーパーがあると利用しやすい。(宇部市, 40~50代, 女性)
- ・公共交通機関の便が多ければ利用したい。待ち時間がもったいない。(山口市, 20~30代, 女性)
- ・施設が駅から離れている。(山口市, 20~30代, 女性)
- ・駐輪場の整備が必要。(山口市, 40~50代, 女性ほか)

・山口線の踏切は自転車では通りづらい(山口市, 40~50代, 男性)

・サイクル県としての対策を求める。(山口市, 40~50代, 男性)

・自転車や徒歩は景色をゆっくり眺めることができる。(山口市, 中学生, 男性ほか)

・家から最寄りのバス停まで30分以上かかるのでバスは利用できない。(山口市, 40~50代, 女性)

3.5 アンケートのまとめ

アンケート結果をもとに2市を比較すると、山口市立中央図書館の利用者は、宇部市立図書館の利用者より滞在時間が長く滞在型であり、駐車場が混雑しやすい。また、代替手段に関しては、自宅から5km以上離れた利用者も多く、可能性が低い傾向にある一方で、工夫の可能性のある人はより意欲的で、代替手段の選択肢が多く、代替手段に対する市民間での意識の差がみられる。同様について利用に関しても山口市立中央図書館利用者の方が意欲的な回答をしている。これは、公園やスーパー、カフェなど、既に施設周辺が充実していることにより、利用者の意欲も高まっているためと思われる。

当日の交通手段が自動車とそれ以外の利用者についても比較を行ったところ、自動車利用者はそれ以外の交通手段での利用者 に比べ、滞在時間が短い傾向にある。エコ交通に対する施策に関しては、自動車以外の利用者の方が、意欲が高いことが分かった。また、施設からの距離が遠いほど、自動車や送迎の割合は増え、徒歩や自転車の割合は減少し、代替手段の可能性も低くなる。エコポイント等の制度に関しては、距離が近いほど意欲的ではないことが分かった。

4. 結論

山口市と宇部市の市立図書館の立地条件や周辺環境を調べ、山口市立中央図書館は、図書館の規模も大きく、周辺施設も充実している滞在型の図書館であり、公共交通の便も比較的良好なこと、一方で、宇部市立図書館は、滞在型の図書館へ変化する途上であり、将来的に駐車場が混雑する恐れがあることが分かった。

2つの図書館利用者へのアンケート調査により、移動手段とエコ交通に関する意識について尋ねた。両市とも自動車利用が60%、次いで自転車が30%となっている。山口市は宇部市に比べ滞在型の傾向があり、駐車場が混雑しやすいこと、また、山口市では市民間で公共交通への意識、エコ交通への意欲に差が生じていることが分かった。図書館利用のついで活動について、山口市立図書館の方が宇部市立図書館より行っている・行いたい割合が高く、周辺環境の影響がみられる。その他にも、エコ交通に対する意識には、施設までの距離や年齢、交通手段が影響していることが分かった。

今後の研究課題として、旧市と旧町での違い、天候や季節による意識の違いなど調査し、詳細なデータから具体的な改善案などを検討することが挙げられる。

謝辞：アンケート調査に協力して下さった、宇部市立図書館・山口情報芸術センター・山口市立中央図書館の職員ならびにアンケートに回答して下さった皆様に感謝の意を表します。

参考文献

1) 総務省. ” 勢調査/平成 22 年国勢調査/小地域集計 35 山口県”. Stat-政府統計の総合窓口
一. https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001039448&cycle=0&tclass1=000001047504&tclass2=000001047882&stat_infid=000017274074&tclass3val=0, (参照 2020-01-30).

2) 宇部市総合政策部政策企画課. ” 宇部市地域公共交通網形成計画”. 宇部市.

<https://www.city.ube.yamaguchi.jp/kurashi/koutsuuchuushajou/koukyoukoutsuu/documents/keikakuzentai.pdf>, (2020-01-15).

3) 宇部市都市整備部道路整備課. ” 宇部市自転車活用推進計画”.

<https://www.city.ube.yamaguchi.jp/kurashi/sumai/dourokasen/1002277/1002309/1002310.html>

(参照 2021-01-10)

4) 山口市交通政策課. ” 第二次山口市市民交通計画 (山口市地域公共交通網形成計画)”. 山口市.

<https://www.city.yamaguchi.lg.jp/site/shiseijoho/40426.html>, (参照 2020-01-10).

5) 久野譜也・他. 健幸社会への処方箋「Smart Wellness City」. 彩の国さいたま人づくり広域連合政策情報誌 Thinking. 2014, no. 15.

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/01/15/top.html>, (参照 2020-02-05)

6) 村上ひとみ・宇都宮仁. 自転車事故分布と走行実態に関する研究—キャンパスシティ・山口市の例—. 土木計画学研究発表会論文集. 2014, no. 50.

7) 宇部市図書館企画運営係. “宇部市図書館年報”. 宇部市.

<https://www.city.ube.yamaguchi.jp/kyouyou/toshokan/riyouannai/nenpou.html>, (参照 2020-01-13).

8) 山口市立図書館. “山口市立図書館年報 平成 30 (2018) 年度”. 山口市立図書館.

<http://www.lib-yama.jp/unei/nenpou.html>, (参照 2020-02-07).

9) 宇部市立図書館 : UBE 読書のまちづくりネットワーク会議, 2019

https://www.city.ube.yamaguchi.jp/kyouyou/toshokan/oshirase_toshokan/1004487.html, (参照 2020-12-01)

10) 山口県. “やまぐち自転車活用推進計画”. 山口県.

https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/201912/045369_f2.pdf, (参照 2020-02-07).

(令和 3 年 3 月 19 日受理)